

制作概要

2006年9月11日開催（於：フェスティバルホール）の第74回NDKファッションショーへの出品作品である。ショーテーマは「LANDSCAPE ファッションと蒼天のコラボレーション」。出品部門は、第四景ブライダルウェアであり、部門テーマは「パリ新都心ラ・デファンスの花嫁」である。

自身のテーマを「Coming Up Roses!」とし、女性の憧れであるウェディングドレスをデザイン・制作した。ここには、人生最高のステージに着用する衣装に花嫁の願いを込めた形とした。花嫁のドレスの色として『白』が定着しているが、その始まりは約160年前の英国ヴィクトリア女王が着たドレスであった。色鮮やかで豪華絢爛なローブを身にまとうことが常だった当時の王族の婚礼衣装としては異例なほどに質素であったが、その清楚で可憐な花嫁姿が人々の心を打ち、それ以来花嫁になる日は全身を白一色で包む習慣が生まれ、白の持つ輝きや純潔さが、今でも花嫁のピュアな心を表現している。

日本の婚礼衣装は和服が常であったが、現代においては、結婚式・披露宴に花嫁がドレスを着用することが一般化している。挙式においては上記のように『白』を着用することが多く、披露宴において、挙式と同じドレスにプラスしてカラードレスを着用する傾向がある。また、ドレスのオーダー方法にはレンタルからオーダーメイドまでであるが、最近は購入する割合が高くなる傾向である。そのような流れの中、個性を生かした自由なデザインのドレスが人気を集めている。

ここでは、従来あるブライダルドレスの形から逸脱した形を提案した。ドレスのシルエットとしてベルラインを基本に用い、デコルテはビスチェ、スカートはバルーンとした。ボディに沿ったビスチェに薔薇の花を付け、スカートと帽子にも同じ薔薇の花を付けた。土台となるビスチェやスカートにはピンクのサテンを用い、オーバースカートには薄いピンクのチュールレースを使用した。ビスチェ、スカート各々の裾には下方に処理を施したフリルを付け、動きを出した。

田中 由佳理

ウエディングドレス 「Coming Up Roses!」

第74回NDKファッションショー

フェスティバルホール(大阪・中之島)

2006年9月11日

制作過程

■デザイン

身頃はビスチェ、スカートはバルーン型とし、身頃、スカート共に、裾にフリルをつけた。身頃には全体に薔薇を付け、スカートにはチュールレースでオーバースカートを重ね、華やかさとボリュームを出した。身頃に対するスカートの重みを考慮し、ツーピース形式とした。

■使用素材

サテン、チュールレース、ナイロンタフタ、キュプラ

■付属品

アクセサリ（イヤリング、ネックレス）、バスケットブーケ、帽子（同素材にて制作）、手袋

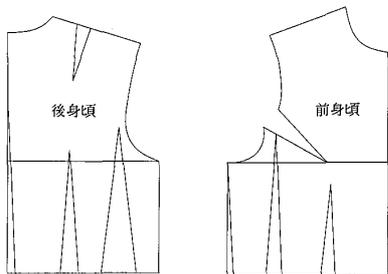
■パターンメイク

文化式原型を用い、ドラフティングによるものである（CAD使用）

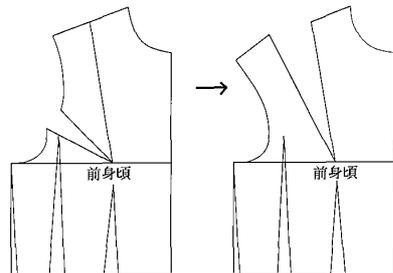
① パターン作製

(1) 身頃

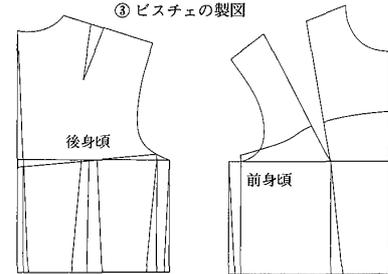
① 身頃原型（モデルサイズ）



② 原型ダーツの操作
胸ぐせダーツを肩ダーツに移動



③ ビスチェの製図



前後身頃共に脇でゆとりをカットする（前：B/4+1 後：B/4-1）
ウエストには全体で2cmのゆとりを入れる
（前：W+2/4+2 後：W+2/4-2）

(2) スカートの

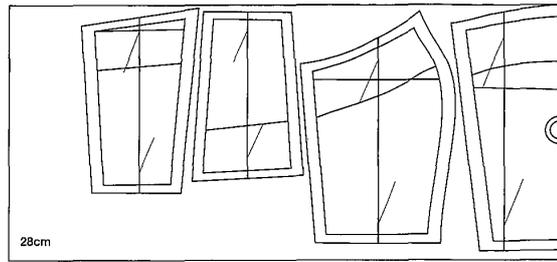
- 1 ギャザー分量を全体で300cmとし、前後各半身で2箇所分散して切開く（オーバースカートにおいては、ギャザー分量を全体で380cmとし、丈は90cmプラスとする）
- 2 表地と裏地に長さの差をつけ、バルーン型を形成し、裾にはゴムを挿入。

(3) パニエ

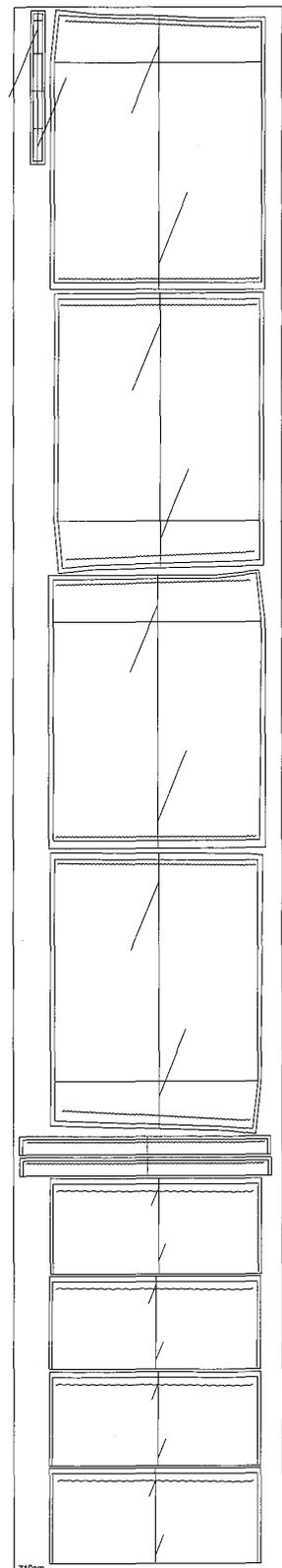
- 1 ダーツをたたみ、フレアに展開
- 2 裾10cmに見返しをつける
- 3 裾から1cm、10cmの箇所にもーンを挿入。

パターン&マーキング ※土台布（サテン）のみ

身頃
（左から、後脇身頃、後身頃、前脇身頃、前身頃）



スカート（一部身頃パーツ含む）
（上から、ベルト、前スカート、後スカート、前スカート、後スカート、身頃裾フリル2枚、スカート裾フリル4枚）



② 仮縫い（変更箇所）

- (1) スカートの丈が短く、フリル5cmプラス。
- (2) 身頃、スカートにつけたフリルの裾には巻ロックを施し、その際にテグスを挿入していたが、スカートフリルに関しては、テグスでは意図するシルエットが出ず、丸ボーンを挿入するように変更。
- (3) スカートの重みでパニエの形が保てないため、ボーン挿入を2箇所追加。

③ 縫製

- (1) 身頃をコルセット風に仕上げのため、サテンにナイロンタフを裏打ちし、プリンセスライン ボーンを挿入。また、胸元には巻きロックを施したレースを見返しとの間にギャザーを寄せてはさみ込んだ。
- (2) 肩紐なしの形態とするため、ボディへのフィットを考え、太さ3cmのゴムを2本、右脇にはさみ、左脇にてフックでとめる形態とした。
- (3) オーバースカートはウエストにギャザーを寄せた後に、バランスを見ながら土台スカートに留め付けた。



仮縫い情景（前）

（後）



田中 由佳理

ウェディングドレス「Coming Up Roses!」

2006年9月11日

第74回NDKファッションショー

フェスティバルホール (中ノ島)

